

「基本教材」改定の方向性（案）

研修プログラム				改定の方向	
章タイトル	手法	頁	節タイトル 等	要否	改定の方向（案）
表紙		1	男女共同参画の視点からの防災研修	更新	○より研修で学ぶ内容が分かるよう改善してはどうか。 (案) 研修「災害対応力を強化する女性の視点」
研修の目的		2	- 地域の災害リスクを軽減するためには、男女共同参画の推進が不可欠であることを理解する。 - 防災における男女共同参画を推進する上で、行政が果たすべき役割は何かを考える。 - 防災・危機管理担当と男女共同参画担当がどのように連携・協力できるかを考える	更新	○「目的」は基本的には同じ（防災研修プログラム「手引書」のp.4） ○「目的」を達成するための具体的な「目標」（研修後の受講生の姿）を設定してはどうか。 (案) 1. 過去の災害や復旧・復興において発生している男女共同参画の課題（困難）を知り、その原因を理解できる。 2. 災害時の困難を最小限にするために必要な女性の視点や、災害発生時や復旧・復興時に行政として取るべき行動や対応上のポイントを理解し、活用できるようになる。 3. 平時において、防災・危機管理担当と男女共同参画担当が連携・協働し、男女共同参画の視点を入れた効果的な施策を企画・実施するための知識やノウハウを身につけ、自らの業務に適用できるようになる。
目次		3		更新	
セッション1 1. 防災と男女共同参画	座学	4	防災とは	×	○「防災」に関することは削除してもよいのではないかと
		5	地域の防災力と自助・共助・公助	×	
		6	共助を機能させるには？	×	
		7	地域の人々とは？	○	
		8	男性と女性で異なる災害が与える影響	○	○上記「目標」を達成できるよう現在のスライドを基に新「ガイドライン」の内容を踏まえて再構成する
		9～14	参考データ ・阪神・淡路大震災の男女別・年齢階層別死者数 ・東日本大震災の男女別・年齢階層別死者数 ・東日本大震災後の雇用における男女の状況 ・東日本大震災後に飲酒量が増加した人の割合 ・東日本大震災後の睡眠に関する状態 ・東日本大震災直後から避難所での生活	○	
		15	男性と女性で異なる災害時の支援ニーズ	○	
		16	東日本大震災時に女性が抱えた困難：女性たちの声	○	
		17	防災に関する意思決定の場は男性が中心	○	
		18	日ごろの防災活動も男性が中心：ある市での防災訓練の風景	○	
		19	昼間と夜間で人口構成が異なる：ある市の場合	○	
		20	災害に強い地域社会を作るには	○	
		21	参考資料 防災基本計画／男女共同参画基本計画	更新	
				更新	最新版に更新
セッション2 2. 男女共同参画の視点から具体的に考える	GW	22～29	シチュエーションから考える行政の対策 1) シチュエーション・シートを読む 2) グループで話し合う 3) 全体共有 4) 講師が気になるワードや対策のポイントを説明し、取組指針や解説・事例集を用いて解説	×	○シチュエーション・シートを使ったワークは削除
セッション3 3. 男女共同参画の視点からの防災を実践する	GW	30	（中表紙）男女共同参画の視点からの防災を実践する ・地域の課題と行政が実行すべき解決策	×	○防災・危機管理担当と男女共同参画担当がそれぞれの「講義（報告）」を行い、それ踏まえ、グループワークで話し合いをさせる内容のため、報告の内容によって話し合いの内容は違ため、経験の少ない講師が進行をするのは難しい。
		31	地域の災害の特色	×	
		32	地域の防災における男女共同参画推進の取組	×	
		33	セッション3の進め方	更新	
		34	話し合いのためのスライド 1. 地域の防災対策の「課題」は？ 2. 男女共同参画の視点から考えて、「優先的な課題」は？ それらの課題について、「行政が実行すべき解決策は？」 3. 発表	×	○よって、「目標」を達成することを念頭に、「グループワーク」（リモート研修の場合は「個人ワーク」）を再設定してはどうか。 (案) セッション1・2で学んだことを自らの仕事に適用し、具体的な施策を検討してもらい、全体で検討結果を共有する。その後は、全国を取組事例（好事例）について具体的に学び、先に考えた自らの取組へのヒントを得る。
		35	男女共同参画の視点からの防災を実践するために	×	
		36	（中表紙）男女共同参画の視点からの防災を実践する ・全国を取組事例紹介	○	
		37～40	事例1 男女共同参画の視点による避難所用品の整備（静岡県三島市）	更新	
まとめ		41	（中表紙） まとめ	更新	
		42	まとめ	更新	